

図書館だより

藤女子大学



Fuji Women's
University Library

新入生歓迎 特集号

発見の喜び

藤女子大学図書館長
内田 博



読書を通じた発見について、個人的な体験を紹介します。

もう三十年以上も昔のことになりますが、大学院生の頃に一年ほどドイツに留学していました。食事は学食と自炊でした。自炊のためのドイツ料理の簡単な本を買いました。自炊や学食で分かったのは、日本の主食とヨーロッパのメインディッシュは違うという当たり前のことでした。日本の主食は炭水化物ですが、ヨーロッパの主食であるメインディッシュは肉だということです。米料理は付け合わせかサラダにすぎないということです。牛肉より羊の肉の方が高級らしいとか、腎臓の肉は高級品だとか、狂牛病がはやる前だったので、脳まで食べるのかといった発見もありました。

さて、帰国してから、十九世紀後半から末にかけてのドイツにおける労働者生活史の本を読みました。そこに、ある工場労働者の一週間の食事が紹介されていました。肉は週に一度しか、教会から戻った日曜日の昼食でしか食べていませんでした。肉どころかバターも満足に入手できず、植物油をパンに塗って食べていました。それだけ貧しい労働者が多かったということなのですが、その貧しさが、肉中心の食生活を実現できずに、パン＝炭水化物中心の食生活に具体的に表れていたというのが、新たな発見でした。労働者の食生活の内容が他階級とは異なるということは、当然ですが、食事の買い物先が異なる＝生活圏も異なるということです。（同じ本には労働者向けの商店の写真も載っていました。）労働者世界というキーワードは、当時すでに存在し、労働者と他階級との生活圏の違いや生活感情の違いが議論されていました。それを極めて具体的な生活場面で歴史的に確認できたことは、のちの研究にとっても大きな意味をもちました。

ここに紹介した話は、趣味と生活上の必要から始めた読書が研究につながったという例です。世の中には全く無関係なものはありません。一見関係のない事柄でも、どこかをたどれば様々つながりがあります。要は、それが見えるか見えないかです。それがどんなものでも、見えてくるとそれなりの喜びはあります。こうした喜びを与えてくれる装置のひとつが書物です。

レポート課題を書くために図書館から本を借りるのもよいですが、ひまつぶしに図書館に来て本を閲覧するのもよいです。何か発見があるかもしれません。見つけられるかどうかは、あなた次第です。

CONTENTS

1. 発見の喜び 内田 博
2. 余暇と図書館 ^{スコレ} 榎湯 弘市
4. 学生による企画展示
5. 図書館キャラクター「きしんさん」に決定!
5. 大事にしよう
6. 本のアンテナ～本の選びかたを教えて～
7. 図書館委員会からのお知らせ
7. 2010 年度図書館のあたらしい動き
7. データベース利用統計よりお知らせ
8. 図書館員のオススメ本 第 10 回

No.81

2011.4

スコレー 余暇と図書館

文化総合学科 ますかた 榎瀨 こういち 弘市

大学図書館は大学教育を根幹で支えております。国や地域社会の文化が図書館の内容と規模によってはかられるのも、図書館が人びとの関心事と文化を映す鏡だからです。近年の図書館事情ばかりでなく図書館の歴史物語に興味のある愛書家には、マンガルの『図書館—愛書家の楽園』（白水社、2008年）をお勧めします。

『論語』で知られる孔子の時代、中国の書物は竹簡本でした。それは、長方形の竹の筒を横に並べて草の紐で編んで出来ている。孔子の「韋編三絶」の故事は、この草の綴じ紐が三度切れるほど孔子が繰り返し愛読書に読み耽ったことに由来します。

世界で最初の公共図書館と考えられる、紀元前3世紀末に建てられたエジプトのアレクサンドリア図書館は、その当時すでに20万ものパピルスの巻物でいっぱいであったという。これにならって図書館の建設を進めた小アジアのエゲ海沿岸のペルガモン王国は、エジプトからパピルスの輸出禁止の妨害にあう。これに対抗して発明されたのが羊の皮の紙です。羊皮紙がパーチモンすなわち「ペルガモンの」と呼ばれるのはこのためです。虫が付きやすく劣化の速いパピルス紙から、強靱で文字が容易に消えず虫のつかない羊皮紙への書き写しは、貴重な図書の保存に大いに貢献することになった。

昨年の夏、私は30年来の友人の神父さんに会いにローマに行ってきた。折角の機会なので、一度は行ってみたいと思っていたヴェネツィアに立ち寄った。ラグーンの上にて一大都市を築き、繁栄を極めた人々の後裔の暮しに触れてみたかった。それとヴィヴァルディの「四季」の夏とトマス・マンの「ベニスに死す」の浜辺の風に魅かれたからだ。

水の都ヴェネツィアは教会の街でもあった。その中でも聖母マリアを祀るために建てられたフラール聖堂は荘厳を極めていた。この聖フランチェスコゆかりのヴェネツィア・ルネサンスの美の小宇宙のような聖堂で、私は日曜日の御ミサに与かった。ミサの後で地元の人たちから親しそうに声を掛けられた。ヴェネツィアから列車で30分ほどの処に中世からの学問都市パドヴァがある。中世教会史を研究する友人に勧められた通り、最初にスクロヴェーニ礼拝堂を訪れた。私はジョットの天才に圧倒された。フレスコ画の青の世界に身を洗うように立ちつくす異邦人に、職員が間近で自由に鑑賞出来るように計らってくれた。街の中心にあるパドヴァ大学は1222年創設のイタリアで二番目に古い大学で、医学や自然科学の歴史を誇っている。コペルニクスが留学し、ガリレオが教鞭をとった、この伝統ある大学の図書館と物理学博物館では、藤女子大学図書館の紹介状のお陰で私は心温まるもてなしを受けた。世界で最初の



ドロミテの森：北イタリアから南チロルへと続くこの森の木は、ラグーンの湖沼に打ち込む杭や造船に使用されてヴェネツィア共和国の都市の建設と富の源になった。（世界自然遺産のドロミテのカドーレにて）

解剖教室では、つい今しがた別れを告げて来たばかりの美しい礼拝堂の思い出を大切にたくて、私は中に入るのを止めた。しかし今も心残りなのは、薬学研究のために造られた世界遺産の植物園を見ることが出来なかったことです。

ヴェネツィアではサン・マルコ広場にある国立サン・マルコ図書館古文庫で、ギリシアの哲学者プラトンの羊皮紙の手写本とローマ詩人の最高峰といわれるウェルギリウスの羊皮紙の手写本を閲覧した。古文庫の図書戸籍には「プラトン対話編、12世紀の手写本を1796年に再写本」と記してあった。紙の活版印刷が一般的であったフランス革命期に書き写されたこの分厚いギリシア語の羊皮紙本には、プラトン・アカデミズムの精神を彷彿させるものがあった。荘重な室内には、良い図書館に共通の穏やかさと優しさがあつた。日本に帰ってから分かったことだが、1513年には既にヴェネツィアでプラトン全集の活字本が出版されている。私は改めて文化伝承の精神の本質に触れた気がした。

このサン・マルコ図書館はイタリア・ルネサンス初頭の偉大な詩人、ペトルルカの蔵書を基に創設されたということで、彼の巨大な胸像が目に飛び込んできた。詩人にして人文主義の父であるペトルルカは、「ほんとうに人間である」ことの証しを「人間性・人間的教養」(humanitas)に見出した。人間愛を信じ、「人間性を纏い野獣性を脱ぎ捨てること」こそが、人間の尊厳を確立する道だと考えた。「人間性」とは、実践と理論の知識、節度、親切、思いやり、そして礼儀正しさのことである。

考えてみると、いま私たちは、自分自身のつくったもの

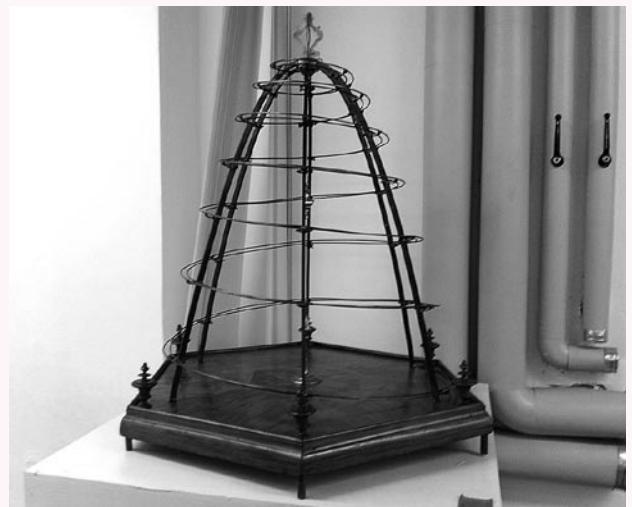


パドヴァ大学図書館所蔵のガリレオの1623年出版の『Il Saggiatore (鑑定官)』の貴重本。

に後れをとるという逆説的な状況の中にあるように思われる。人間は、近視眼的には科学技術の恩恵を享受し、大局的には巨大科学技術ネットワークの網に漁られているように思えてならない。たとえば、狂騒する世界金融市場の前では先進諸国さえ成す術が無いからだ。生命、環境、情報の分野では山積する新たな倫理問題に追われている。いたるところで仮象と現実が錯綜し、纏れ、離れる。しかし問題が多様化しグローバル化すればするほど、私たちは常に繰り返す一つの命題に立ちかえることを余儀なくされる。それは、プラトンの師のあのソクラテスが死に臨んで友人と確認し合った人間の生の原則である。「大切にしなければならぬのは、ただ生きるということではなく、よく生きるということなのだ。」

情報の洪水に飲み込まれることなく、文明の変化の奔流に棹さして、しかもいたづらに流されることなく生きる確かな道は、ただ一つであるように思われる。それはよく学びよく考えることである、と私は思う。真理は遍く平凡である。「学んで思わざれば則ち罔し、思うて学ばざれば則ち殆し」で、情報収集にばかり夢中で考えることを怠ると、混乱に陥り自分を見失うことになるし、考えるだけで世の中に学ぼうとしなければ、社会に出ても独断的になりうまく行かないことが起るからです。

学生時代は、文字通りよく学びよく考える力をつける時です。すべてに時があります。青春は学びの時です。プラトンを生涯の師と仰ぐアリストテレスは、私たちが人生において望むことのできる最も喜ばしいものは何かを問われて、「スコレー」すなわち「余暇」であると答えています。スクールの語源であるこの言葉が意味するものは、単なる休息のことではない。何かが生まれてくる「自由な時間」、何か根付く「落ちついた時間」のことです。大学図書館、そこには飛び切り上質の余暇があります。



パドヴァ大学物理学博物館所蔵のガリレオの「物体の落下の法則」が直接目で見て分るようになるための装置。



展示紹介

学生による企画展示



昨年度、図書館で展示をしてみたい学生さんを募集したところ、3組の応募がありました。ボランティア活動に関係するものなど、それぞれに特色のある魅力的な展示でした。開催した順番に写真付きでご紹介します。

第一回 フィリピン支援NGOハロハロの会

担当 英語文化学科4年 中村さん、曾根本さん
英語文化学科3年 坂田さん、人間生活学科2年 中村さん

コメント

フィリピンの子供たちと交流するボランティアツアーに参加した4人で、図書館展示を行いました。フィリピンのことを伝えたい!!という思いがきっかけです。



展示はボランティアをしたい方だけではなく、多くの方に興味を持ってもらえるような内容にしたかったので、本の選択にはとても迷いました。海外についての本や、フィリピンについての本など、色々な種類の本をバランスよく選べたと思います。生徒の方が立ち止まって、展示してある本や写真に興味を持ってきているのを見ると、とても嬉しかったです。本とのいい出会いを作っていたらいいな、と思います。以下は、他のメンバーからのコメントです。

中村(文)さん「やりたいと思ってなかなか始められないボランティア。少しでも気になる本があれば手にとって、一歩踏み出してほしいです。」

中村(友)さん「大変だったけど、みんなにフィリピンのことを少しでも知ってもらえるきっかけになったと思うので、やって良かったです」

「やさしい」って、どういうこと? (アルブモッレ・スマナサーラ) 159 / Su56
 夢は逃げない。逃げるのはいつも自分だ。(高橋歩) 159 / Ta33
 東南アジアのキリスト教(寺田勇文) 190.22 / Te43
 フィリピン民衆の解放とキリスト者: 獄中からのメッセージ (デ・ラ・トーレ) 190.22 / To69
 マザー・テレサと幸福への道 (アイリーン・イーガン他) 190.28 / B62e
 愛しあおう。旅にしよう。(高橋歩) 291 / Ta33
 フィリピンの歴史・文化・社会: 単一にして多様な国家(デイビッド・J. スタインバーグ) 292 / St3
 これからのフィリピンと日本: 民際交流のすすめ (ルベン・アビト) 319 / H11
 わかりやすい国連の活動と世界: 国連英検指定テキスト (日本国際連合協会) 329 / N71
 国際ボランティアガイド (バックストン美登利) 329 / P28
 ほか28冊

第二回 藤女子大学のサイエンスブックス

担当 図書館情報学課程 科目等履修生 成田さん

コメント

昨秋、「伝えるために... きいて読む、読んで書く」と題して、主に自然科学書を本館で展示させていただきました。数年前から取材・執筆活動をしているサイエンスポータル*の記事と書籍との



コラボレーションを考えたのです。学会講演などを原稿にまとめるとき演者の文献も参照することがあり、複数の先生方のご著書が藤女子大学図書館に所蔵されていたからです。展示ではポップ

の書誌情報に記事の引用を添えました。原稿の作成では専門的なお話をわかりやすく、正確に伝えようと思案します。特に医療分野は言葉や表現に注意しています。図書館情報学を学んでいて良かった...と思うエピソードもありました。時々同サイトの「科学のおすすめ本」に書評も寄せています。『土の科学**』という新書で思いがけなく高村光太郎の作品に出会いました。詩の余韻と著者の滋味豊かな記述があいまって、土(土壤)の深遠な価値がじっくり伝わってくる本です。

*サイエンスポータル: 独立行政法人 科学技術振興機構 (JST) が運営するウェブサイト → <http://scienceportal.jp/>
**本館収蔵

- * 美食のフランス: 歴史と風土 (ジャン=ロベール・ピット) 383 / P69
 - 生物多様性とは何か (井田徹治) 468 / I18
 - 人間とは何か: チンパンジー研究から見てきたこと (松沢哲郎) 489 / Ma93
 - * 発がん物質 (杉村隆) 491.6 / Su39
 - * がんところのケア (明智龍男) 494.5 / A33
 - * 地球環境50の仮説 (西岡秀三) 519 / N86
 - 持続可能な低炭素社会 (池田元美ほか) 519 / Y86
 - 循環型社会: 持続可能な未来への経済学 (吉田文和) 519 / Y86
- ほか5冊・括弧は編著者

第三回 レポートでお世話になった本

担当 日本語・日本文学科4年 齊田さん

コメント

私は、レポートやゼミで使用した本を選び、図書館展示企画で展示をしました。本を選ぶために、過去四年間分のレポートを読みましたが、思わず穴があいたら入りたい気分になってしまいました。



しかし、恥ずかしさと同時に私がこの四年間何をしてきたのかを見つめ直す、良いきっかけにもなり、楽しんで本を選ぶことができました。展示した本の中では、講義で発表することが出来た京極夏彦『陰摩羅鬼の瑕』が一番思い入れのある本です。

展示した本のジャンルは、純文学、大衆文学、ミステリと様々です。また時代も近代~現代までといった幅広く様々な本を並べました。

図書館にある正面の一番目立つガラスケースの中に本を展示したのですが、少々地味な展示となりました。そのため、見てくれる人はいるのかと不安を感じましたが、展示の前で足を止めた方がいらしたので、嬉しかったです。図書館展示企画に参加させていただき、ありがとうございました。

- 至高聖書(アバトン) (松村栄子) 913.6 / Ma82
 - 陰摩羅鬼の瑕 (京極夏彦) 913.6 / Ky5
 - 後巷説百物語 (京極夏彦) 913.6 / Ky5
 - 新宿鮫: 無間人形 (大沢在昌) 913.6 / O69
 - 暗い絵 (野間宏) 913.6 / N94
 - 惜別 (太宰治) 913.6 / D49
 - 菊慈童 (円地文子) 913.6 / E58
 - 定本久生十蘭全集 913.6 / H76k
 - 女坂 (円地文子) 913.6 / E58
 - 虞美人草 (夏目漱石) 913.6 / N58 / 1
- ほか16冊

*皆さんの学年は展示当時のものです。

*は花川館所蔵です。

図書館キャラクター「きしんさん」に決定!



「図書館キャラクター」の募集を昨年9月から11月にかけて行ったところ、本館・花川館合わせて32点の応募がありました。12月にコンテスト形式で投票を実施し、投票総数は228票でした。応募、投票へのご協力ありがとうございました。

さて、気になる投票の結果は…!

第一位 「きしんさん」

得票総数 63 票



よろしく
お願いします!



表彰式の様子 (1月25日、本館にて)
日本語・日本文学科 矢部さんと内田館長

コンセプト

花とつぼみがモチーフです! 好奇心のつぼみが花開くイメージをキャラクターにしてみました。

第二位 「フジラネ」

得票総数 24 票



第三位 「ナチュア」

得票総数 19 票



コンセプト

情報や資料が溢れる図書館を海に見立てその中を泳ぐ、というイメージから海の生物をモチーフにして描きました。(絵の中でも本の情報を海水として描きました。)

その海の生物の中でクリオネを選んだのは、普段は優雅に海を漂っているから獲物を見つけると素早く動き捕まえてしまう所から、同じ様に図書館を利用する人が求める資料・情報を素早く得てその情報をかみ砕き、新しい自分の情報にしてほしいと思ったからです。また、クリオネの名前の由来に文芸の女神が関わっている事も、沢山の資料や作品とめぐり合う場所である図書館にあっていいのではと感じたこともクリオネを選んだ理由の一つです。キャラクターの名前はクリオネと藤女子大学、図書館(ライブラリー)をかけてつけました!

コンセプト

藤女子大学の象徴である藤の花から生まれたナチュアちゃん。ツルに囲まれながら、本を読むその姿は、まさにあたたかさや気品を兼ね備えた藤の図書館をイメージしています。

結果は「きしんさん」がダントツの得票数で一位となりました。

キャラクターに決定した「きしんさん」は、これから図書館のホームページや配布物、ポスター、オリジナルグッズなど、様々なところで活躍予定です。



大事にしよう

最近、図書館の本を汚したり、書き込みをする利用者が目立ちます。本は雨、雪、飲み物、お弁当などで濡れてしまうとページがくっついて使えなくなります。カバンの中に入るときも、必ずビニール袋に包んで持ち運ぶようにしましょう。汚れた本は弁償してもらっています。利用証の貸し借り、本の又貸しはしないでください。



本屋に行き、売り場を軽く一周してみる。「いいかも。」と思う表紙が目に入ったら、手にとってひらいてみる。続きが読みたいと思ったら入手してみる。ハズレしてしまうこともあるけれど、失敗を恐れずにとりあえず手に入れてみよう。

「本をひらいてみる」

図書館のカウンター前に、一週間ごと新しく入った本が並ぶ棚がある。図書館の職員が選書した本、図書館利用者の希望で購入した本、学科の希望で購入した本などが並ぶ。予約することもできるので、ぜひチェックしてみよう。

「図書館の 新着書 チェック」

藤女子大学図書館ホームページの蔵書検索をひらいてベストリーダーのボタンをクリックしてみよう。図書館で利用されている本のランキングがわかる。

「ベスト リーダーを チェック」

本のアンテナ

本の選びかたを教えてください



図書館に行っても、

本屋に行っても、

いったい何を读んだらいいのかわからない。

自分にとってオモシロイ本って

どうやって見つけれられるの？

「雑誌『ダ・ヴィンチ』、 『本の雑誌』をひらいてみる」

いま流行の漫画、ライトノベル、小説などを探したい方におすすめ。最近のトレンドを短時間にチェックしたいなら、図書館にもある雑誌『ダ・ヴィンチ』、『本の雑誌』をひらいてみよう。毎年、年末になると年間総合ランキングの特集が組まれるので一年間のヒット作品はこの号で確認できる。

「教えてgoo!、 yahoo!知恵袋の 質問をたどる」

読みたい本のジャンルがあるけど、どれがいいかわからない。でも誰に聞いたらいいかわからない。そんなとき、質問者のコメントをたどると、自分が探している好みの小説を紹介していることがある。

作家、学者、タレントなどが、話題の本を論評している。新聞の紙面でもネット上でも朝日、毎日、読売新聞などの書評を読むことができる。

「新聞の書評を チェックする」

「PR誌を読む」

大きな出版社や本屋が、作っている新刊本紹介のための雑誌。大学の図書館にもおいてある。そのほとんどがA5サイズの小冊子で、毎月発行される。無料でもらえるものが多いが、有名な著者のコラムが連載されていたり、書評があったりとなかなか読み応えがある。

例えば、語学検定受験対策に一冊選びたい。本屋に行ってみたらどれも似通ったタイトルで、どれを選べばいいかわからない。そんなとき、星の数、レビューから判断材料を得ることができる。登録すると、購入しなくてもあなたの閲覧履歴から傾向を分析し、新刊本などオススメ商品をメールで教えてくれる。

「Amazonの サイトをつかう」

「好きな書評家 を見つける」

あの人が美味しいと紹介したお店がよかった。それが続くとその人と自分の味覚が近いということになる。本を読むのも同じこと。「その道に詳しい、この人の紹介なら読んでみたい!」そういう人、自分の感性に合う書評家を探すという方法もある。例えば、斎藤美奈子、豊崎由美などの書評本が図書館にもあるので読んでみて。

紀伊国屋などの大型書店のホームページには、書評ブログが併設されている。書評を読めば、自分の好みと丸っきり違うものを手にとってしまった!なんてことはない。背伸びして、ちょっと難しそうな本をチャレンジして読んでみたものの、途中で挫折した。誰でもこんな経験はあるはず。でも、書評を読んで、一度頭にポイントが入っている状態なら、気持ちもラクラク。

「書評ブログを 読んでみる」

図書館委員会からのお知らせ

「図書館だより」前号で、2010年度図書館委員会として実行すべき課題10項目についてお知らせいたしました。委員会として各項目の纏めを行ないました。その中から本学の研究成果である研究紀要電子化の現状についてお知らせいたします。

本学における紀要の電子化については、2006年7月から国立情報学研究所（以下NII）の論文情報ナビゲータCiNii*1への登録で開始されました。

これはNIIの研究紀要公開支援事業で、登録誌の申請、採択、冊子体の送付、電子化、公開と言った手順に基づき事業が進められました。本学では3年間この支援事業により電子化をすすめました。2009年度からは支援事業の方法変更により、各大学が電子化しCiNiiに登録するか、各大学独自に「機関リポジトリ」*2を構築することとなり、本学では研究紀要納品時に冊子体の他にPDFファイルでも納品いただきこれによりCiNiiに登録することとしました。

また過去に発行された紀要類については、執筆者の先生方に電子化の許諾請求をおこない許諾を得た論文について電子化し登録しております。

○対象誌と電子化状況(2011年3月現在)○

藤女子大学紀要Ⅰ部	第4号(1966)～47号(2010)＋
Ⅱ部	第5号(1967)～47号(2010)＋
キリスト教文化研究所紀要	第1号(2000)～第10号(2009)＋
人間生活学研究	第14号(2007)～第17号(2010)＋
藤女子大学福祉研究所年報	第1巻1号(2006)
藤女子大学QOL研究所紀要	第2巻1号～5巻1号(2010)＋

登録論文数 317論文 現在電子化作業中195論文 計512論文

今後、対象となっていない紀要類についても編集委員の先生方とご相談しながら順次電子化できるよう検討をすすめていく予定です。
どうぞご利用下さい。



*1 「CiNii」とは
学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなど、学術論文情報を検索の対象とするデータベースである。登録件数は1,300万件以上で、その中には本文が公開されているものも多い。
<http://ci.nii.ac.jp/>

*2 「機関リポジトリ」とは
研究機関がその知的生産物を電子的形態で集積し保存・公開するために設置する電子アーカイブシステムである。

✧ ✧ ✧ 2010年度図書館のあたらしい動き ✧ ✧ ✧

- 2010年4月 ・ AcademicOneFileというデータベースが利用できるようになりました。
英語で書かれた学術雑誌の他、読み物系の雑誌記事や新聞記事も見ることができます。英文学、海外文化の研究に役立ちます。
- 2010年7月 ・ 図書館本館で展示してくれる学生ボランティアを募集しました。計3組の応募があり、順次展示していただきました。
- 2010年9月 ・ 図書館キャラクターの募集を開始し、11月に締め切りました。合計32点の応募があり、コンテスト形式で投票を行ったところ、「きしんさん」に決定しました。

データベース利用統計よりお知らせ

2009年度より本学が契約しているJapan Knowledge+(ジャパンナレッジプラス)は、辞書・事典を中心に構成されたコンテンツから横断検索ができるデータベースです。Japan Knowledge+は、全国の大学で304校(※)に導入され、そのなかでも本学は、デジタル大辞典、国史大辞典、日本国語大辞典、日本大百科全書などを中心に、全国的に見ても高い利用率を誇っています。

全体的な検索数はもちろんのこと、日本語・日本文学科のゼミで使われる日本国語大辞典の利用が圧倒的に多く、次いで国史大辞典と日本大百科全書の利用が持続的な動きをみせています。一年間(2010年)を通してみると、10月の利用率が高く、304校中9位のアクセスがありました。

※ 2011年2月時点

2010年10月の 導入校検索ランキング

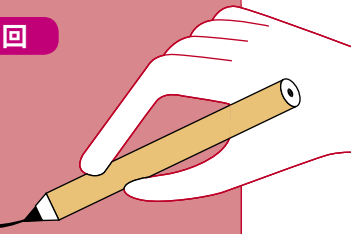
- 1位 早稲田大学
- 2位 東京大学
- 3位 京都大学
- ⋮
- 9位 藤女子大学



皆さんは最近絵本を読みましたか？大人になってからの絵本には、子どもの頃とはまた違った魅力があります。花川館に絵本が多いのはもちろんのこと、本館には英語の絵本を多く所蔵しています。短い英文をたくさん読むことで英語力がつくというメリットもあるそうです(大きな声では言いにくいですが、絵本の場合、言葉が分からなくても楽しめますね)。今回は数ある絵本の中から「いのち」をテーマにセレクトしてみました。さあ、絵本の世界へ。

図書館員の オススメ本

第10回



「うまれてきたんだよ」

所蔵館：花川館
請求記号：376.19 / U14

この世に生まれてきてても大事にされない命があるということ。淡々とした語り口ですが、重いテーマを描いた絵本です。ニュースを聞いてもはや驚かなくなってしまうほど、幼児への虐待事件は多く起こっています。どうか、一人でも笑っている子ども、親に抱っこしてもらえる子どもが増えますように。そのためには傍観者ではなく、身近な問題として幼児虐待を意識していかなければと思います。



「みずならのいのち」

所蔵館：花川館
請求記号：376.19 / Te31

人間や動物に比べて、樹木の生命はなんと長いことでしょう。百年という単位で自然を眺めてきたみずならの木が、年老いて何を思うのか。版画による絵がとても力強く、優しく、森の生きものたちを静かにたくましく見守ってきたみずならの姿に重なります。



「ぼくがラーメンたべてるとき」

所蔵館：花川館
請求記号：376.19 / H36

「ぼくがラーメンたべてるとき、となりでミケがあくびした」こんな出だしの絵本。となりのミケから、となりのお友だちへと視点は移り……今ここで平和に暮らしているぼくの、遠く離れたどこかの国では同じくらいの歳の子どもが戦禍を被っているという事実。読後、外を吹く風が違ったもの感じられるかもしれません。



「みんなあかちゃんだった」

所蔵館：花川館
請求記号：493.9 / Su96

赤ちゃんが生まれてから2ヶ月、3ヶ月、半年……この時期にはこんなことができるようになります、と赤ちゃんの成長記録のような絵本。2歳を過ぎる頃には少しずつ身支度が自分ひとりできるようになり、赤ちゃんからこどもへと成長します。たくさんの人が大人になり、やがていろいろな職業につくけれど、最初はみんな……。当たり前のことですが、最後の一文にはじんわりと感動します。



「ぼくの図書館カード」

所蔵館：本館
請求記号：376.19 / Mi27

人種差別が行われていた1920年代のアメリカ南部では、黒人は図書館を利用することは出来ず、読み書きを覚えることすら必要ないとされていました。それでも本を読みたいという気持ちを抑えることは出来ないし、読む前と後では世界が変わって見えるような本との出会いは何ごとにも替えられません。読書とは知識を得るだけでなく、人間としての命を生きるということにつながっているのです。

■ 編集後記 ■

今年、藤女子大学図書館開館50周年の年です。81号の巻頭言は、「発見の喜び」と題して内田博図書館長、榎鴻弘市先生よりスコレ「余暇と図書館」、企画展示に参加した学生よりご寄稿いただきました。この場を借りてお礼申しあげます。

昨年度募集した図書館キャラクターが「きしんさん」に決定しました。「きしんさん」は、好奇心のつぼみが花開く姿をイメージして作られました。そもそも、種がなければ花は咲きません。図書館における活動も、「種をまく」ことから始まります。図書館キャラクターの募集、応募作品への投票から決定といった試み、学生の活動を中心とした「学生さんの企画展示」も、ひとつの「種」といえるでしょう。小さな「種」に「水をやり」、「育てる」ことによって、何らかの「つながり」が「見えてくる」のかもしれない。(M)



ケータイから
本が探せます!



QRコード

藤女子大学 図書館だより 第81号 2011.3

発行者 藤女子大学図書館

札幌市北区北16条西2丁目

TEL 011-736-5407 FAX 011-709-4770
http://library.fujijoshi.ac.jp/